

令和5年度 第4回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和6年2月9日（金） 13時30分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 特別活動室
3. 出席委員 山本忠雄 矢野陵子 鈴木貴子 室内恵理香（学校支援CD）
4. 欠席委員 池谷真也 和田安彦
5. オブザーバー 細川恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援CD（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 影山ちか（校長） 石島正巳（CS担当教諭） 服部将剛（主幹教諭）
青木雅俊（生徒指導主事）
8. 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
9. 傍聴者 なし
10. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
11. 議長の選出

司会より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

12. 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) いじめ防止等のための基本的な方針について
- (3) 来年度の学校運営の基本方針について
- (4) 学校運営協議会の自己評価について

13. 会議記録

司会より、委員総数6名のうち4名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

主幹教諭より別途資料に基づき概要説明があり委員からは以下の発言があった。

山本会長：挨拶において難しい点があることは承知しているが、街頭指導の大切さがデータにも出ている。黙動清掃も大切だ。PTA、青少年健全育成会、本協議会の3本柱で挨拶運動や学校環境の支援をしていけたらと思う。課題として、挨拶、授業理解、家庭学習の3つがあるが、昨年の卒業式では見事な感動を見せてくれた。本校生徒さんには頑張る力はある。評価や励まし、頑張らせることが大人としての手立てではないか。自由記述欄では、記名式にしたことである意味安心した部分がある。●が多いことが気になるが、こうするべきだというご意見が多いのだろう。○が少ない事に関しては、地域においては大人としてもいろいろな立場があるが、子どもの見方や励ましを頑張ってみつけていけば○が増えていくだろう。

矢野委員：このアンケート結果は全家庭に出しているのか。

服部：結果の一部とまとめたものをホームページに載せている。

校長：アンケートとなるとどうしても要望が多く出てしまうが、その中でも○を書いて下さる方がいることはとても嬉しく思う。

服部：意見の数は昨年よりも増えた。

校長：記名式のため三者面談で担任から回答し、内容によっては謝罪をした。

矢野委員：難しいところだが、色合いとしては●の視点の方が保護者も強くなってきているのだろう。

校長：〇は思っていてくれる方も多いと思うが、あえて書くとなるとなかなか難しい。むしろ聞いて欲しい要望については、書かないと伝わらないというところだろう。

矢野委員：ブログは個人写真のためのものではなく、学校の雰囲気や地域に伝えるためのものであり、写真がぼやけているという●の意見はなかなか残念なところがある。

校長：難しい世の中で、世界に発信されてしまうリスクもあるため、全体の様子が伝わるよう意識して撮っている。敢えてぼやかす時もある。

矢野委員：年度初めに行うブログ掲載可否のお知らせの時に、あまりはっきりした画像にはならないよう配慮しています、という一文を入れても良いのではないかと。

服部：楽しみにしている方もいることは承知しているが、学校側としては顔や個人が特定されないようにしなければならない。

校長：●も記名式なので、三者面談の際に丁寧に説明し、思いは受け止めたができないこともある、という話ができたと。そこが大切だと思う。

鈴木委員：以前、朝読書があったが今はタイピングになっている。アンケートでも同じ事を繰り返している、読書の機会が減ったという反省もある。多読賞も無くなってしまい寂しく思う。

服部：授業の中でタブレットを使用する機会が増え、タイピングができないとなかなか難しい状況になるため始めた。学年によっては読書をしているところもある。これからは子供たちに選択肢をえられる時間帯にしても良いのではないかと教員の中でも意見が出ているところだ。

校長：今年から図書支援員が代わったことも要因ではないかと思う。本の紹介もたくさんして下さる方なので、お伝えして良いものは引き継いでいきたい。

(2) いじめ防止等のための基本的な方針について

生徒指導主事より今年度のいじめに関する報告があり、委員からは以下の発言があった。

矢野委員：解消されていない残りの6件は11月に発覚したものなのか。

青木：1件は6月に起こったものだが、解消されない理由は「何もないが不安がある」ということで継続的に様子を見ていく意味も込めて解消にはしていない。

矢野委員：本人はいじめと感じるが、蓋を開けてみたらちょっと消しゴムを貸してもらえなかったというような話だったりする。それをされた側はいじめだということでアンケートに書いてくるのか。

青木：浜松のいじめアンケートは項目が様々で、叩かれた、悪口を言われた等、いじめに関する行為と、その後相談できたか、解決できたか、という内容もありコンピューターの方で選別されてアラートが立つ。それによって教員は生徒に聞き取りをする。最初は200件程のアラートが立ったが、それぞれ担当が聞き取りをすると、ただのじゃれ合いでいじめではなかったということが多かった。だが、あがったことによって教員と子供たちの話し合いの場ができる。そこでいじめなのか、いじめではないのか、子供の中ではそうでなくても大人から見るとそれはいじめだということもある。教員側も単独ではなく複数で総合的に判断して認知している。

矢野委員：アラートが立った件数ではなく、先生たちが子供と話し合っていじめと認知したものが今年度の32件ということですね。

校長：子供たちがいじめと感じていなくても、大人のこちら側が聞いて話す機会があることが重要。

青木：話をすることでいじめが減るというデータもある。

(3) 来年度の学校運営の基本方針について

校長より別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

山本会長：来年から制服が変わるということで何か期待されることなどあるか。

校長：いろいろな意見がある中で、時代の流れと多様性、経済的、衛生面の3点で検討してきた。社会に出た時に正しい服装で正しい行動ができるように、そして学校生活の中でのトータルが制服だということ。自分でTPOに合わせて正しい服装を選んで欲しいと思っている。今年度から衣替えの時期の指定をしなかった。今でも半袖で来る子もいるが、それはどうなのかということも含めて教えていかなければならない。先生や親に言われるのではなく、自分で判断して行ってほしいという思いがある。

鈴木委員：校則も変わり自由化してからどうか。それによって子供たちはどう変わったのか。

校長：導入当初は髪を結ばずに来る子もいたが、だんだん支度が面倒になったのか導入前と変わらなくなってきた。三つ編み、ポニーテール、ツープロックは増えた。原則は授業の時に支障にならないようにと伝えている。靴も靴下も派手な子はいない。生活委員長に聞いてもそれほど混乱はない。浜松市も全体的に自由化になりつつある。

石島：授業をしていても違和感はない。前髪が気になる時は目にかからないようにと指導している。

校長：体育は種目によってお団子スタイルはダメ。それも自分で考えるようになってもらいたい。

矢野委員：学生服は大き過ぎるくらいでスタートして、卒業の時にちょうどいいサイズになっているというのが風物詩のようなものだが、ブレザーは大きいサイズを着るのはみっともないと、お店の人に言われ、途中で買い替えを覚悟したという新一年生の保護者の話を聞いた。

校長：今年PTAで制服のリサイクルがあった。買う方も多く見られ来年も是非続けて欲しい。

室内委員：通勤時間に毎朝同じ子とすれ違う。こちらが挨拶をしても最初は頭を下げるだけだったが、だんだん挨拶を返してくれるようになった。社会人でもそうだが、コミュニケーションが取れないと何も始まらない。積み重ねだなあと考えた。委員として学校の外からこういったことをやっていきたい。

鈴木委員：挨拶運動は負担のない程度に定期的に行えると良い。やればやるほど子供たちの声も出てくると思う。積み重ねだと思う。是非参加したい。

校長：去年も挨拶運動の期間外に道路に立ってくださっている方がいた。できる方が無理のない範囲でやっていただけたらありがたいと思う。

矢野委員：そういった大人の姿勢が大事だろう。地域にも働きかけられるといい。ボランティアに来てもらうのは難しいだろうが「中学生を見かけたら是非声をかけてください」と大人側の姿勢も見せられたらいいだろう。

鈴木委員：安易に他人に声をかけられない世の中になりつつある。挨拶運動のタスキが必要だろう。

校長：勉強が苦手でも人に可愛がられるようになることが大切。人として関われる人になってもらえたらと願う。

出席委員全員が賛同し、令和6年度の学校運営基本方針は承認された。

(4) 学校運営協議会の自己評価について

本協議会の主な意見は以下の通りである。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

○いじめ防止基本方針について知ることができ、大変良かった。

○校長及び各担当の先生より、目指す姿や取り組みの説明を十分に聞かせていただくことができた。

その上で、疑問点や思いを委員それぞれが伝え合い、話し合うことができた。

- 限られた時間の中ではあるが、基本方針の方向性や目指すべき学校環境を確認することができた。ただ、コロナ禍を経験してきた子供たちは、昔よりも成長過程において体や心に個人差が広がっているように感じられるため、全員が目指す生徒像に近づけるよう、努力して欲しいと感じる。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 学校支援活動の実際はまだ多くはないが、活動を絞って着実にいくつかの実践がなされている。様子についても細かな報告をいただき良かった。引き続き行っていけたらと思う。
- ICT活用状況の一端を参観することができた。また、実際に我々委員がタブレットを操作しながら熟議が行われた事は、大変有意義であった。
- コロナ禍の影響もあるが挨拶の評価値が年々低くなっている。挨拶や生活習慣に関しては、日々の積み重ねが大切。学校や家庭で継続して対応する必要性を感じる。協議会として挨拶ボランティアなど、何かできることはないか協議したい。
- ボランティアは学校支援活動という意味では大変重要な役割だと思うが、誰でもいいという訳ではない。子ども達が地域活動に積極的に入り込むことにより、学校の様子をアピールすると関心を持つ必（きっとそうなること・間違いなく）が増えるのではないか。

司会より、来年度の第1回学校運営協議会は6月頃を予定している旨を伝え、会を閉じた。